授業レポート
子どもが主人公となり、各々が成長できるような学級活動をつくり出すには？
① 自治の場 ② 人間関係の把握 ③ 認め合う
→ 学級での時間を大切に。

特別活動の理論と実践　レポート課題

0200223262

教育学部２回　三森彩乃

1．

≪はじめに≫

この講義を受講するまですっかり忘れていたが、私は小学校・中学校を通して学級役員を何度も経験した。そして、小４のとき、学期末のお楽しみ会にて学級のリーダー陣でドラえもんの劇を行い、大うけしたこと、中２のとき、学園祭を目前にしていまいち熱心になり切れていない自分のクラスをもどかしく思い、皆の前で泣きべそをかきながら話したことなどを思い出した。振り返ってみると、今の私を形成している最大の軸はあれらの学級役員の経験だったように思うのである。

しかし、その時々では目の前のことに一生懸命で、活動の裏側、つまり、そうした機会が意図的に設定されたものであることや、担任教師から見た私やクラスメイトといった点については考える余地がなかった。今回、教職科目として勉強して、初めてそれらのことに気付き、そして、改めて特別活動が子どもに与える影響の大きさを感じた。

このレポートでは私もとてもお世話になった学級活動について考えていきたい。問いは「子どもたちが主人公となり、各々が本当の意味で成長できるような学級活動をつくり出すにはどのような工夫が必要か」。２年前まで実際に学級の中で一生徒だった経験を生かし、また将来教職に就くことを想定しながら、考えていきたい。

≪考えられる工夫≫

① 学級を自治の場にする

学級活動において子どもたちが主人公として活躍するためには、学級が自治の場となっていることが必要であると考えられる。

そのためにはまず自治の形式を導入することが欠かせない。具体的には、学級の核となる役員を置く、学級のある部分を担当するようないくつかの係を全員が担うようにする、などである。しかし、自治の形式は、その言葉通り、形式であるため、そのままでは簡単に形式的なものに転化してしまう危険性がある。実際、担任のお手伝い役であるだけの学級役員、活発な意見が交わされあうこともない名ばかりの学級会などは、多くの生徒が経

験しているように思う。

これを本当の自治へと導いていくためには、子どもたちが具体的な活動やトラブルの解決のプロセスの中で、自治の形式を導入する必然性やその意義を感じられるようにする指導が必要となる。「子どもたちだけでは無理なのではないか」「子どもたちの話し合いを大切にするのはいいが、そのための時間がない」といった考えは置いておき、子どもたちを信頼して真剣に話し合いを指導する姿勢を、教師の側は持たなければならない。そして、子どもたちの学級会で決まったことは、安全面や教育課程上の問題に触れる場合を除いて、実現させるように努めることが大切である。(たとえ問題がある場合でも、一方的に禁止するのではなく、子ども代表と教師の二者協議によって決定を行うべきである。)「自分の提案がみんなに認められた」「このクラスでやってみたかったことが実現した」といった喜びが次第に学級の自治活動を生き生きとしたものにしていくし、自分から積極的に意見を出していくタイプではない子どもたちも、そうやって自らのクラスが仲間の提案によって動いている様子を目の当たりにする中で、本当の自治を学んでいくと考えられる。

② 子どもたちの人間関係の把握

学級活動を進めていくにあたって教師がまず把握すべきなのは、学級の子ども集団にどのような人間関係が存在し、そこにどのような課題があるか、ということである。どのようなグループが存在し、誰と誰が仲良しで、誰と誰が仲良しではないのか、権力構造の頂点に立つのは誰で、誰が排除されているのか。こういったことを観察しながら、子どもたちが抱えている課題や望んでいる活動、自治的な活動の先頭に立つことのできるリーダーなどを発見する。男女間の交流が希薄な場合には、男女が協力し合える学級活動を作り出していくことが課題となるし、どの集団からも孤立している子どもがいる場合には、彼らが仲間と出会い、望ましい人間関係を築けるように支援していくことが課題となる。このように、子ども集団の実態から、学級活動を通じて取り組むべき課題が見えてくる。

ここで注意しなければならないのは、教師には人間関係の真の実態が見えづらいということである。この傾向は思春期の子どもにおいて顕著である。教師にはわからないようにいじめが行われている可能性すらある。常に子どもたちを見つめ、小さな変化も見逃さないようにすることが求められると考える。

取り組むべき課題は、集団が抱えるものだけではなく、一人ひとりの子どもが抱えるものも多い。各々の問題があるからこそ集団の問題として現れていると考えることもできる。目立った問題行動を起こす子どもばかりに課題があるのではなく、課題は全員が抱えてい

ることを念頭に置き、それに付き合ったり寄り添ったりするような感覚で指導を行っていくべきである。そのためにもやはり、子どもたちの人間関係には敏感である必要があると考える。

③ 全員の活躍の場・お互いを認め合う空気をつくる

学級活動では、一人ひとりが主人公となるべきであるが、特に優れたリーダーが存在するクラスでは、リーダーのみが主人公となってしまうことも多い。それを避けるために、その他の子どもが活躍できる機会を意図的に設ける必要がある。学校行事に合わせてその実行委員を学級のリーダーとは別につくる、普段は大人しいが運動は得意な子どもが活躍できるようなスポーツ大会を開く、などの工夫が考えられる。ここで言う活躍とは、何も例であげたような派手なことばかりを指すのではない。ある子どもが学級の中で注目を浴び、認められることを言う。私の小学校のころの担任の先生も実践なさっていたが、帰りの会で「今日のがんばったで賞」「今日の思いやり賞」などを子ども間で発言させる活動も効果的であると考えられる。また、日々の中での「今日の掃除、○○は最後まで机を運んでいたなあ」とか「○○は家族を大切にしているんだなあ」といった教師のつぶやきも大きな力を持つ。今の子どもたちの中にはない観点からの評価ができるからである。

子どもが学級の仲間一人ひとりに目を向け、いいところや、時には悪いところを発見しながら、お互いに認め合える空気ができて初めて、それぞれが主人公となった活動が展開できると考える。

また、人から認められたという経験は子どもにとって非常に大切である。そのことで自信を持ち、また一歩幅を広げた活動ができるようになるのである。また、人のことを認めることができたという経験も、その子どもの人間性や社会性を豊かにすることにつながる。各々の本当の意味での成長とは、こういった経験の中でこそなされていくのではないだろうか。

《おわりに》

以上、「子どもたちが主人公となり、各々が本当の意味で成長できるような学級活動をつくり出す」ために考えられる工夫を述べたが、全てに共通して言えるのは、学級を大切にする姿勢を持つことから始まる、ということである。近年、選択教科が拡大されたり、少人数指導が複数教科で実施されたりする中で、学校内の集団が多様化され、学校生活における学級の重要性が弱まってきていると言える。しかし、だからこそ、子どもの居場所と

a0081476

なり、子どもの学校生活を豊かにする力を秘めている学級は大切にされるべきであると考える。新しい状況を踏まえつつ、さらなる工夫について考えることを続けていきたい。

（3003字）

《参考文献》

・『教師教育テキストシリーズ12　特別活動』

著：折出健二　学文社　2008年

・『子どもが子どもとして生きる―子ども集団の発展と指導』

著：新谷開・船越勝　クリエイツかもがわ　2003年

・『共同グループを育てる―今こそ、集団づくり』

著：船越勝・宮本誠貴・木村勝明・藤木祥史他　クリエイツかもがわ　2002年

2．

1．では自らの経験を導入とし、「子どもたちが主人公となり、各々が本当の意味で成長できるような学級活動をつくり出すにはどのような工夫が必要か」という問いを立て、それを考察していく形にしたが、この問いの登場がやや唐突であったように思われる。またそれに対しての考察も十分だったとは言えない。

しかし、あえて工夫のポイントを絞り、明確化したことで、具体的な場面が思い浮かべられるような、実践に生かせるようなレポートになったと思う。

a0081476

教育実習　朝SHRでの話のメモ
連絡だけでなく、私の色を。
全員そろう場での、学級づくり。

２年次　５月２３日（木）

<生徒への連絡>　今週の目標：　模試の見直し！　受けたとき以上に真剣勝負で勉強せよ。（ここが大事！）

①・模試直し＆復習課題の提出＝＝＝　２４日（金）は数学　です。

・保健より：尿検査 5/28（火）について・・・・（別紙参照）

②・~~①再検査対象者は，本日の昼休みに保健室へ・・・・・・担任より連絡あり。~~
②前回できなかった生徒は，来週２８日（火）提出・・・容器がない生徒は保健室へ。

・下校時は，①教室と廊下の戸締まり！　②消灯！　③扇風機ＯＦＦ！　を確認のこと。

⑤ モラル，道徳心・・・・　昨日話題となったＰＣ室のいたずら，軽率で次元の低い行為です。
レベルが低い
今回の件にはかかわっておくても、
ほかにも，「ちょっと冗談のつもり」「悪ふざけだった」なんて~~行為はありませんか~~？
ちょっと　ことを軽視していないか。今一度振り返ってみて下さい。
他人を傷つけたり，迷惑をかけたりする行為はありませんか？
実は、自分の言葉が周りの人をきずつけているかもしれない。
それより，自分も周りの人も 笑顔になる生き方をしませんか。
人としてあるべき姿を自身に問うてほしい。
学校内に限らずね。
実は、自分の行動が、誰かの迷惑になっているかもしれない。

こういう内容で 西高のときの担任の先生に言われた~~[illegible]~~、ことがある。
がツンと
そのころ、課題とか勉強とかいろんなことにおわれて、自分本位になりがちだったんですね。
目の前の獲得
「心の偏差値を上げろ。」
すごくショックをうけて。あー こんなこと言われるようになっちゃったんだなあ。
たしかに いろんなことに忙しい

<教科連絡>

④・国語科：昼休みにテキスト配布があります。
購買前？

③ 英語のダイ返却するように
英語係はしょくいん室にとりにきて
みなさんに返却して下さい。

⑤ 応用　2A
標準　3A

<職員連絡>

・二者懇談ご苦労さまです。　生徒との話の中で，何か気になることがありましたらご連絡ください。